

行動科学

講 師	栗 山 雅 子	実施時期 単 位 数	第 2 学年後期 1 単位 （20 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得し、健康支援者としての必要なアプローチを実施するために行動科学を理解する。				
授 業 概 要	人を診る歯科医療では、患者さんとの良好な人間関係つまりコミュニケーションを築くことが大切である。デンタルNLPに基づいたコミュニケーションスキルを教授することにより、自分自身の素直な気持ちを知り、そして相手を大切に思う気持ちを持って行動できる医療人を育てる。				
学 習 方 法	講義・グループディスカッション				
成績評価の方法	講義最終日に行う筆記試験60%、毎回の講義時に行うワークでの発表内容30%、出席状況、授業態度10%				
教 科 書	土屋和子・著「プロフェッショナルコミュニケーション」医歯薬出版 2013 独自の配布資料				
履修上の注意	講義と演習形式の授業です。 将来、医療の専門職としての仕事をはじめると患者さんとのコミュニケーションが重要になります。 人とのコミュニケーション能力は、医療人にとって必須の能力です。 是非、この授業を通して皆さんのコミュニケーション能力を高めて下さい。				
参 考 書	宗像恒次監・著、栗山雅子・著 「歯科衛生士のためのヘルスカウンセリング」クインテッセンス出版 1998年				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	行動科学の概要 プロフェッショナルコミュニケーションスキルであるデンタルNLPの概要	・患者が必要な行動改善に自ら気づき、自分の意思によるセルフケア行動を育てるための行動科学に基づいた効果的なかわり方の重要性について説明できる。 ・NLPの前提とNLPによる変化のプロセスを説明できる。 ・自分自身と向き合うコミュニケーションスキルを獲得する。
2	欲求・感情の体系	・患者に対する共感的理解を行うため「気持ち」と言われるものを欲求・感情・価値などの意識現象として科学的にとらえていくことを理解できる。 ・感情のもつ意味と代表的な情動について説明できる。 ・自己の欲求が満たされない時、人はどのように反応するかを説明できる。 ・患者の意思決定の基礎を理解するとともに意思決定への援助のあり方について説明できる。
3	医療における人間関係の理解(患者理解)	・疾病を抱えた患者の心理的側面について理解できる。 ・患者は疾病をどのように受け止め行動するのかを理解できる。 ・医療面接について説明できる。 ・こころの健康に対する支援を説明できる。
4	言語コミュニケーションI	・ミスコミュニケーションが起こる原因を説明できる。 ・メタモデルを用いてコミュニケーションの質を高めることができる
5	言語コミュニケーションII	・LABプロフィールで言語パターンを理解できる。 (モチベーションに影響を与える共感言語)
6	非言語コミュニケーション	・観察力、キャリブレーションを説明できる。 ・優位な感覚VAK表象システムについて理解できる。 ・歯科臨床現場でのVAKシステムの活かし方について理解できる。 (パーソナリティの特徴を説明できる。)
7	信頼関係の構築	・ミラーリング、ペーシング、バックトラッキング、共感&傾聴、自己重要感を満たすコミュニケーションについて理解できる。
8	リフレーミング ニューロロジカルレベル	・ものごとのとらえ方を変えるリフレーミングについて説明できる。 ・ニューロロジカルレベルを応用し目標、目的に向かうための方法を見つけることができる。
9	保健健康モデル(集団対応)	・代表的な保健健康モデルであるProcede-Proceed-Modelについて理解できる。 ・PPMを用いて保健指導ができる。(人の行動が変わっていくにはどうしたらいいか、どういう時に人は変わるのかを理解できている。)
10	試験	・デンタルNLP技法を用いて課題についてグループワークを行い、成果を発表できる。